



発行日：令和元年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第6回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾への関心を持ってもらうこと、そして持続可能な開発目標の理念の発信を目的として愛知県が主催したイベントです。矢作川流域圏懇談会は、三河湾につながる山の情報を知っていただくために、根羽村森林組合による「木に触れて楽しむブース」を出展しました。また、矢作川の情報発信を目的としたクイズの出題や懇談会通信の掲示を行いました。



三河湾の環境再生、SDGsの達成に向けたセレモニー「ガンパローコール」の様子

日程：令和元年10月20日（日） 9：00～15：00

場所：碧南市大浜漁港

参加人数：11名（事務局を含む）

◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容



■目的（テーマ、HPより抜粋）

愛知県では、多くの県民の皆様が三河湾に関心を持っていただくとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の一つである「海の豊かさを守ろう」を始めとするSDGsの理念を発信するため、第6回三河湾大感謝祭を開催します。

■主なイベント内容

- ◇三河湾環境トークショー（ゲスト：アウトドア派タレント 鉄崎幹人さん）
- ◇名古屋CLEAR'S（アイドル）ミニライブ&来場者との会場清掃
- ◇徳川家康と服部半蔵忍者隊のパフォーマンス

など



矢作川流域圏懇談会のブースを愛知県事に紹介しました

2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体等 出展状況



■矢作川流域圏懇談会

～活動紹介と矢作川に関するクイズの出題～

懇談会通信の掲示と矢作川に関するクイズの出題を行いました。約60名のクイズ参加者には「矢作川流域圏懇談会オリジナル下敷き」をプレゼントしました。

イベントには27団体（国土交通省、愛知県等含む）が参加しました

■根羽村森林組合

～動く木のおもちゃの展示（プレイスメイキング）と木工体験～

三河湾につながる上流の山村から、「見て・触れて・感じて・楽しむ」木のおもちゃを設置しました。根羽スギのペンダントづくりでは、約40名の子どもや親御さんが取り組みました。

■愛知県水産試験場

～海の生きものの展示～

水槽に海の生きものを展示するとともに、パネルを用いた海の情報発信を行いました。

■中部ESD拠点協議会

～SDGsの動画上映と缶バッジづくり～

SDGs（持続可能な開発目標）に関する缶バッジの作成やSDGsの動画を上映しました。

■島を美しくつくる会

～シーグラスの写真立てづくり～

貝殻などを用いた「シーグラスの写真立てづくり」を行いました。

■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

～三河湾とシーブルー事業の紹介～

他の湾に比べて汚れやすい形状にあるといわれる三河湾の特徴を紹介し、きれいな水質を目指すシーブルー計画の発信を行いました。

■環境ボランティアサークル 亀の子隊

～パネル展示～

渥美半島にある西の浜海岸の現状を伝えるパネルの展示を行いました。



愛知県水産試験場



島を美しくつくる会のブース



三河湾事務所のブース



■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

【会場の雰囲気】

- ・本会場は、家族連れが多かった。
- ・缶バッチづくり等、ものを加工し、持ち帰ることができるブースが多かった（およそ9割程度）。

【よかったと思うこと】

- ・動く木のおもちゃの展示は、参加ブースの中では特に目立った。同様の企画はほかになく、子供が遊びに熱中するため、家族づれに好評だった。
- ・矢作川流域圏懇談会ブースは、ステージ寄りの右端先頭ブースの場所で、ブース以外の空間場所も使用でき、最高の位置どりであった。
- ・魚、貝等の海の生き物展示は3ブース程度あった。多くの家族連れを集客していた。
- ・流域圏クイズはまず回答を記入いただき、その後解答のチェックと補足説明を行った。これにより、流域圏について理解・興味をもってもらえた。今後の展示でも取り入れた方が良い。
- ・流域圏クイズの参加者には、矢作川流域圏懇談会下敷き、魚のクラフト紙を景品とした。景品は客寄せに必要なものだと考えられる。
- ・ペンダントづくりは子どもだけでなく、親御さんも楽しんでおり、家族で根羽スギについて知る機会となっていた。

【注意すべきこと・今後に向けた提案】

- ・単にパネル・パンフレット等の展示ブースは、ほとんど来場客がいなかった。
- ・懇談会内容説明パネル、懇談会通信を見た人は、1~2名程度だった。イベントでは、注目されないもので、文字の多いものはあまり情報として置かないほうが良い。
- ・ブースの大きさは、流域圏クイズ、パネル展示、懇談会通信、木のペンダントづくりを展示するには、少し狭かった。
- ・スペースが無く、パネルはテント奥の壁面に展示せざるをえなかった。
- ・今年は海風が強かった。風が強いことを想定して展示するもの、展示の仕方を変える必要がある。
- ・出店規模に応じて木のおもちゃ、ペンダント・弓矢づくりの内容を絞り込むほうが良い。
- ・可能であれば電動糸鋸をもう一台用意しておくこと、お客さんの作業がより流れるようになる。
- ・赤色立体地図パネルに情報を盛り込んだり、指さして話すことができるようにすると、人が集まるし、防災情報等も説明しやすい。
- ・昨年度の蒲郡でのイベントと比べ、飲食ブースが少なかった。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。